

附属幼稚園の教育(7)

行事について

村石 京

秋たけなわの十月、今月の予定には運動会を組み入れて、園も多いことと思います。その他にも夫々の幼稚園では年間の教育計画の中、幾つか行事が盛り込まれていることでしょう。行事によっては、園の独自の目的があるものもあれば、あるいは毎年の慣習として行っているものもあるでしょう。この項では、行事は何のためであり、子どもにとってどんな意味あいをもっているかについて考えてみたいと思います。

日々の生活の中に様々な行事を加えていくことは、子どもたちの体験を広げ豊かにしていくの役に

立っています。そして子ども達の心の中に、期待感、充実感、満足感などを起こさせるものともなっています。終わったあとでは体験の余韻を味わったり、次の生活へのステップとなったりする場合も見られます。

友だちとともに園の行事に参加することは、共通の体験を持つことになるので、友だちとの遊びを広げていったり、工夫しあったりするきっかけとなることもよく見られます。子ども個人としても、実体験を通して得られる様々な知識や経験を自己の中にとり入れ、人間として充実していく体験学習の場と

なったりすることもあります。

更に幼稚園で行う行事は、本質的に子ども達にとって適切なものであるということが最大のポイントとされるのはいうまでもありません。このような意味あいから、附属幼稚園では園全体で行う行事は、どの年齢の子どもも無理なく参加出来るようにということを目指して行っています。また更に年長組にだけ、その年齢に合わせて適当と思われるものを幾つか加えています。次にここ近年、附属幼稚園で行っている行事を月毎の表にあげてみたいと思います。(下の表参照)

この表にあげたものは、子どもたちだけで行うものと、親子一緒に参加するものが混ざっていますが、基

月	1 学 期	月	2 学 期	月	3 学 期
4	入園式・1学期始業式 誕生会	9	2学期始業式 防災訓練	1	3学期始業式 誕生会
5	子どもの日 健康診断 遠足 誕生会 防災訓練	10	誕生会 栗ひろい(5歳児) 地引き綱 運動会 遠足 誕生会	2	節分 誕生会 防災訓練
6	園外保育(夫々の年齢毎に 計画・実施) おだんごやごっこ(5歳児) 誕生会 じゃがいもほり(5歳児)	11	創立記念日音楽会 誕生会	3	ひなまつり 誕生会 卒業式・3学 期終業式
7	ブラネタリウム見学 (5歳児) 七夕 1学期終業式	12	おもちつき 誕生会 クリスマス・2学期 終業式		

本的には子ども中心の行事です。この他に園の行事としては、母親を対象としての保護者会、講演会、バザーなども行っています。

それでは次に具体的な内容を二つばかりあげてみたいと思います。先ず毎月組み込まれている誕生会について述べてみましょう。毎月のことですので表で見ると頻度は多くなっていますが、夫々の子どもにとつては一年に一度のことです。どんなにかこの日を楽しみに待っていたことでしょうか。誕生会の日、幼稚園中の皆の前で名前を呼ばれ、お祝いのリボンを胸につけてもらって、各組の誕生の子どもと共に壇上に並びます。そして皆から「おめでとうございませう」の祝いの言葉と拍手を受けます。子どもにとつては本当に嬉しく、誇らしい一日であります。またその日は誕生の子どもも母親も招かれて一緒に誕生会に参加し、我が子の成長を胸を熱くして見守っています。そして母親も一緒に楽しく歌を歌ったりします。私ども教師は簡単な音楽劇や人形

劇を演じたり、スライドを映写したりします。夫々の級にもどつてからは、誕生日を祝つてお八つになります。その間にも級の仲間たちからは「おめでとう」と言われ、この晴れがましく嬉しい一日のことは、子どもの心の中に長く残るように聞いています。

次に運動会について述べてみたいと思います。折りしも十月、この月に行われる運動会は子どもたちにとつても大きなイベントであります。私どもの園では父母に見せるための運動会を行うのではなく、子どもたちが楽しく体験出来ることを最大の目的に行っています。そのため練習回数等は少なくて、全員揃つて行うというのは当日の他に二回といった程度ある位でしょうか。勿論、所謂ゆーぎ（音楽リズム）の好きな子どもたちは、テープレコーダーをかかえては友だち同士で何回もくり返しおどっていますし、リレーの好きな子ども達は朝登園するとすぐリレーコースをラインを引いて、そ

こを汗びっしょりになりながら何周も走っています。玉入れもはじめは玉を拾ってはかごの中に投げ入れて、とうとうあるだけの玉をかごに投げ入れて山盛りにして、全部入ったと大喜びするようなところからはじまります。

やりたい気持ちの子どもたちが集まってきてやる、このような形の遊びが次第に子どもたちの間に浸透していった、無理なく輪が広がり、全員の子どもの参加する当日を迎える、それが子どもたちの楽しめる運動会なのだと思います。並んで歩いたりするのは上手ではありませんが、自分達で作った色あざやかな万国旗をかざった園庭で、大勢の父母兄弟の前で行うときは、嬉しくて活き活きと表情が輝いています。親子でその当日を楽しく過ごした後も、そこで終わってしまうのではなくて、その日を頂点としながらも運動会の余韻は子どもたちの遊びの中で続いています。今度はゆうぎなどは他の年齢の子どもたちも混ざり合ってお互いに教えあいながら楽しんで

ています。当日の音楽行進もあまり上手ではないし、整列もはとぼっぼ体操も揃ってはいませんが、子どもたちは嬉しくここにこしながらやっています。幼稚園の運動会は上手にやることに目的があるのではなく、皆が楽しく参加出来ることに意味があるのだと思います。他の種々の行事、例えばおもちつきにしても、クリスマス会にしても同じことで、子どもたちにとって楽しくて、しかも胸の中に何か良い思い出が残れば充分なのではないでしょうか。

幼稚園の行事は何のためにあるのかといえば、結局子ども達のためにあるわけです。ですから子どもたちが楽しく行えるということが窮極の目的となり、そのために教師はいろいろ工夫したりしながら、それが子どもたちにとって無理のないものであることを前提として、教育計画の中に織り込んでいくようにしています。

又更に、行事は子どもたちにとってその時々の一つのエポックとしての意味あいはあるものの、決して

て日常の生活とかけ離れたものであってはならない
と思います。言いかえれば、行事も通常の保育の流
れの中での一環であるとしてとらえていくという考
えです。つまりそこにだけ教師が力を入れたり、教
師のプラン中心になって子どもたちを動かすのでは
なく、通常の保育と同じように子どもたちが中心で
あって、子どもたちが良い一日を送るということが
基本になっていることが大切です。そしていろいろ
と体験しながら、自らの視野を広げたり、情操陶冶
をしたり、または友だちと力を合わせてやっていく
気持ちを抑ばすなどと、人間としての豊かさを培っ
ていくことにつながれば最もよいのではないでしょ
うか。

一方では日本古来からの伝統ある行事、例えば、
七夕、節分、ひなまつりなどを身近なものとして幼
ないときから親しむことは意味があることといえる
でしょう。あるいは、家庭ではなかなか体験出来な
いことを園が計画することで、皆が参加することも

出来ます。例えば、じゃがいもほり、地引き網、さ
つまいもほりなどは、自然に親しんだり、収穫の喜
びを味わったりすることにもなります。

再び行事は何のためにあるのかと考えるなら、体
験することに喜びがあり、日常生活の中に色どりを
添え、そしてそれが幼児の成長につながる役割を果
たしていくものであれば意義は深いと思います。

幼稚園は行事が多すぎると言った声もあります
が、日常の保育と遊離したとりあつかい方をした
り、そこだけ突出した力の入れ方をしたりすること
への戒めと受けとめたいと思います。行事も保育の
一環という考え方に立ち、いろいろな意味で無理を
せずに楽しく参加することが出来て、しかも子ども
の心の中に何かを育てたり、残したりすることに役
立ってくればよいのだと考えています。

(お茶の水女子大学附属幼稚園)